

新開地 笑談

——そもそも「街づくりプロデューサー」とはどんな仕事なのか

澤田 日本にそういう言葉があるのかどうかは知りませんが、建物や街のコンセプトを考え、どういった店舗を誘致したらいいのかなどを整理して提案します。設計や施工には直接携わりません。考え方を作っているという感じですね。

——分かりますか

街づくり版の映画監督といった感じです

澤田 映画を撮るときは脚本をどうするか、照明をどうするか、出演者はだれにするかということを中心になって調整します。われわれが街づくりや施設の考え方を整理し、建築士やデザイナーたちと調整して具現化を図るという点ではまさに同じです。大手ゼネコンにはそういう機能を果たす部署がある。われわれは



街づくり 住人 ②

ケイオス社長 澤田 充さん

ビルや土地のオーナーから要請を受けて、その都度、いろいろな専門家を招集してやるんですね。

——街づくりの興味を持たれたきっかけは

澤田 昭和59年4月にリクルートに入社し、すぐビル事業(のちに部)に配属されました。ここで主にオフィスビルの開発を手がけたのです。入社2、3年

いつかは一国一城の主に

後、ある本を読んだら、その中に「一軒の店から街づくりは始まる」と書いてあって、なるほどなと思いましたが、ビル事業部には結局5年間いました。

——いずれは独立するの考えていたのですか

澤田 リクルートに入る前から一国一城の主になりたいと思っていました。でも、こういう仕事で独立し

で意識はしっかりしていました。病院に見舞いに来た人たちに「息子が独立したので、よろしくお願ひします」と営業してくれるんです。これまで生きてきた中で母の死が一番悲しかった。

——お母さんは独立に反対されませんでしたか

澤田 母はボジティブ(前向き)にモノを考える

たいというのはなかった。ビル事業部のおと4年間、経理課長をしました。それまで経理とはまったく無縁で、上司の部長に「僕が経理課長に向いていると思いませんか」と尋ねたら「知らん」と言われた。それで抵抗するのはやめて覚悟を決めました。いずれ独立しようと思っていました。

——大阪・淀屋橋の近くに事務所を構えたのは、独立後からですか

澤田 僕はリクルートの社員時代から会社の顧問弁護士と親しくさせてもらっていて、独立してからのことについても相談に乗ってもらっていました。この先生の事務所が淀屋橋近くの平野町にあり、足を運んでいたら、今、事務所を構えているビルがテナントを募集していたのです。

——平成5年4月に独立されます。その同じときに、お母さんが亡くなったそうですね

澤田 最後まで

(聞き手 佐藤安律)